令和6年度　第4回（仮称）大阪依存症センター機能検討会議
議事概要

■日　　時：令和6年8月6日（火）　午後4時から5時 30 分まで
■場　　所：ホテルプリムローズ大阪　鳳凰（東）
■出席委員：岩田委員、上野委員、籠本委員、佐古委員、辻本委員、
　　長尾委員、中島委員、新川委員、藤井委員、松下委員　（五十音順）
■議　　事：（1）（仮称）大阪依存症センター機能とりまとめ（案）について
　　（2）その他
■議事結果：

〇センターの主な機能である「①相談・医療・回復へのワンストップ支援機能」及び「②普及啓発・情報発信機能」に関し、これまでの検討会議でいただいたご意見を踏まえ「とりまとめ（案）」を提示し、委員から概ね了承を得た。
〇今後、委員意見を踏まえ、とりまとめ（案）を修正し、座長へ確認後に公表する。

■主な意見：

①相談・医療・回復へのワンストップ支援機能
●支援内容について
・本人よりも家族の相談の方が多く見込まれるため、家族へのサポートをもう少し検討してほしい。
・回復支援プログラムは平日夜間・日曜昼間だけでなく、土曜・祝日も実施してはどうか。
→（事務局）現在、専門医療機関では平日や土曜にプログラムを実施いただいていることが多いことから、それらと重ならない時間帯を例示として記載したもの。具体的な実施日は、今後、最新の状況を踏まえ検討する。
・プログラムを実施する時点で、自助グループへもあわせてつないでほしい。
・プログラムについて、複数クールでの参加が大切。
・センターの利用者のうち、ギャンブル等依存症の方の割合は、ほとんどもしくは半分程度など、どのぐらいだろうか。
→（事務局）利用者の割合予測は持ち合わせていないが、ギャンブルとアルコール併存などクロスアディクションへの配慮が必要であり、その他依存症への対応も必要と考える。ただ、ギャンブル等依存症の方の有職率が高いことを踏まえ、平日夜間等に開設する当センターでギャンブル等依存症回復プログラムなどを行う。
・子どものネット依存やゲーム障害など、社会的に問題になっている依存症についても幅広く対応することをめざすべき。

●相談に対応する人材等について

・人的資源を充実させるためには、財源をしっかり確保しておくことも必要。

・民間支援団体との連携について、自助グループのノウハウを活かし、体験談以外でも連携を進めてほしい。

●地域とのコーディネートについて

・地域での相談支援が充実されるよう、地域の支援者がセンターに相談できる流れをフロー図等に盛り込んでほしい。

・センターに様々な支援者・機関が関わることで、支援者同士の情報共有などが進むなど、大阪全体で支援者のスキルアップ・レベルアップにつながることが期待される。依存症センターのポテンシャルは大きいと思う。

②普及啓発・情報発信機能

・例えばアルコールでは、健康障がい対策という広い概念で、ゼロからリスクの少ない飲酒、危険な飲酒、有害な飲酒、そして依存という流れのメカニズムや飲酒の危険性の啓発などが進んできたところ。ギャンブル等依存症についても、はまっている方への対策はもとより、まだギャンブルを経験したことがない方への啓発・対策も重要と考える。

・いま、ギャンブル産業によるオンラインギャンブルの広告規模が非常に大きい。依存症対策についてどう知っていただくか、将来は広告のプロの方にご意見も聞いていくなど、より効果的な広報を行ってほしい。

・良い機能があれば自然と口コミで広がっていくので、そのようなセンターをつくってほしい。

・依存症は誤解や偏見がいまだに強く残っている。普及啓発にしっかり取り組んでもらいたい。

③その他

・（仮称）大阪依存症センターの名称について、センターの役割がより伝わるような名称と、また、府民が利用しやすく、親しみの持てる愛称のようなものを府市でよく検討すべきと考えるがどうか。

→（事務局）次期の第3期ギャンブル等依存症対策推進計画の検討を進める中などで名称や愛称について検討していきたい。

・センターの名称について、依存症は否認の病とも言われており、当事者からは依存症の文言があると行く必要は無いと考える傾向もあるため、名称に「依存症」は使わない方が良いと思う。